

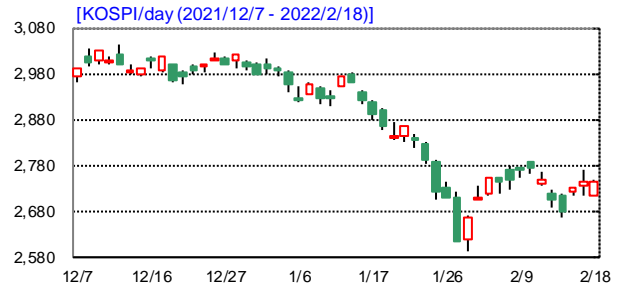


【韓国】 総合指数は週間で0.1%安と続落、今週は韓国中銀の基準金利に注目

先週の動き／今週の展望

総合指数は週間で0.1%安と小幅に続落。週前半は売り優勢の展開で、週半ば以降に下げ幅を縮めた。14-15日は米国の金融引き締め観測やウクライナ情勢の緊迫化への懸念に加え、韓国国内で新型コロナウイルスの感染者数が過去最多を更新したことが重し。リスク回避の動きが広がり、15日終値は節目の2700ポイントを割り込んだ。16日はウクライナ情勢への過度な警戒感が和らぎ、欧米市場が上昇したことから2.0%高と反発。17日は1月の米FOMC議事要旨を受けて、米金融引き締めに対する過度な懸念が後退し、海外投資家の買いが目立った。18日は小幅に3日続伸となり、週の取引を終えている。今週もウクライナ情勢をにらみ神経質な展開か。24日には韓国中央銀行が基準金利を発表する予定で、注目されそうだ。

▼指数チャート

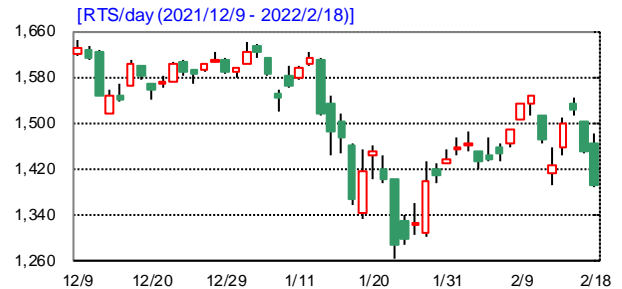


【ロシア】 RTS 指数は5.4%安と4週ぶりに反落、今週もウクライナ情勢が重しか

先週の動き／今週の展望

RTS 株価指数は週間で5.4%安と4週ぶりに大幅反落。ウクライナ情勢の緊迫化を受けて週後半に大きく下落した。ロシアのウクライナ侵攻の可能性が嫌気され、週明け14日のRTS指数は前週末比3.0%安と急落したが、ロシアがウクライナ国境の兵の一部を撤収したと発表したことで、指数は15日に5.0%高と大幅に反発し、16日は1.8%高と続伸。ただ、ウクライナを巡る緊張が再び高まったことで指数は17日に4.9%安、18日に4.0%安となり、1月26日以来の安値水準で週を終えた。原油相場が15日以降、下落基調に転じたことも重しとなった。個別では産金株や鉄鋼株などが上昇した一方、資源株、金融株、エネルギー株などが大幅安となり、指数を押し下げた。今週はウクライナ情勢の緊迫化が引き続き重しか。

▼指数チャート



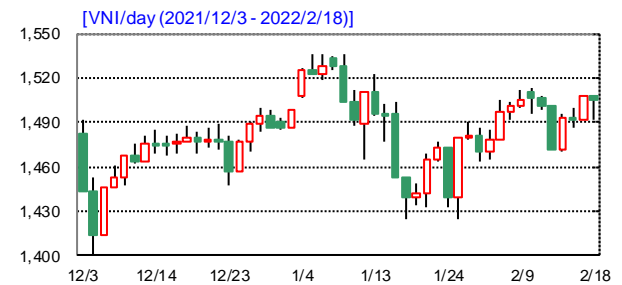
【ベトナム】 ベトナム指数は週間で0.2%高と小幅に3週続伸、今週は底堅い展開

か

先週の動き／今週の展望

VN 指数は週間で0.2%高と3週続伸。下落してスタートしたが、海外勢が買い越しとなる中、空運、食品、エネルギー株が大幅高となった。週明け14日は金融などの大型株が売られ、VN指数は前週末比2.0%安。ただ、15日は海外勢が買い越しとなる中、金融株が買い戻され、指数は1.4%高と反発した。16日は横ばいとなったものの、17日はエネルギーや生活必需品株が上昇し、指数は1.1%上昇。18日は小幅に反落した。個別では空運のベトジェット航空が12.2%、食品のマサン・グループが9.0%、飲料のサイゴンビール・アルコール飲料が6.1%、エネルギーのペトロベトナム・ガスが5.4%上昇。一方、金融のベトナム投資開発銀行が6.7%、ベトインバンクが6.0%、サコムバンクが5.5%下落した。今週は底堅い展開か。

▼指数チャート



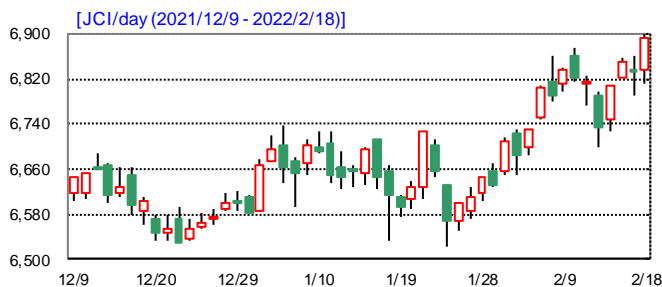


【インドネシア】

【先週の動き／今週の展望】ジャカルタ総合指数は 1.1%高、今週は 6900 ポイント到達に期待

ジャカルタ総合指数は週間で 1.1%高と 3 週続伸。週末の反発で上げ幅を広げた。週初の 14 日は、ウクライナ情勢の緊迫化が嫌気され、指数は前営業日比 1.2%安と終値で 6800 ポイントを割り込んだ一方、15 日は 1 月の貿易黒字額が市場予想から上振れし、引け際に買われた効果で前日比 1.1%高と 4 日ぶりに反発。16 日は 5 営業日ぶりに終値で過去最高値を更新したが、17 日は反動で 3 日ぶりに下落した。ただ、18 日は場中に一時、6900 ポイント目前まで上昇し、終値で 2 日ぶりに過去最高値を更新して引けている。今週は 21 日発表の中国の最優遇貸出金利の動向など、外部要因が指数を左右する展開か。

▼指数チャート

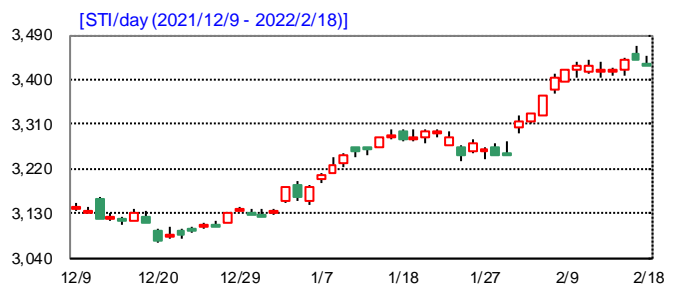


【シンガポール】

【先週の動き／今週の展望】ストレーツタイムズ指数は 0.001%安、政府が消費税引き上げを発表

ストレーツタイムズ指数は週間で 0.001%安とほぼ横ばい。狭いレンジでの値動きが続いた。週初の 14 日は、ウクライナ情勢の緊迫化などを受けて 9 営業日ぶりに反落。15 日は前日からほぼ横ばいで推移すると、16 日はロシアがウクライナ国境付近から軍隊を一部撤収したとの発表が好感されて買われた。17 日は 21 年 10-12 月期の GDP 確定値が前年同期比 6.1%増と速報値を小幅に上回った効果で買い優勢の展開となったが、18 日は政府が発表した 22 年度予算案に消費税の引き上げが盛り込まれた影響などで、4 日ぶりに反落して引けている。今週は 23 日に 1 月の CPI、25 日に鉱工業生産が発表される予定。

▼指数チャート

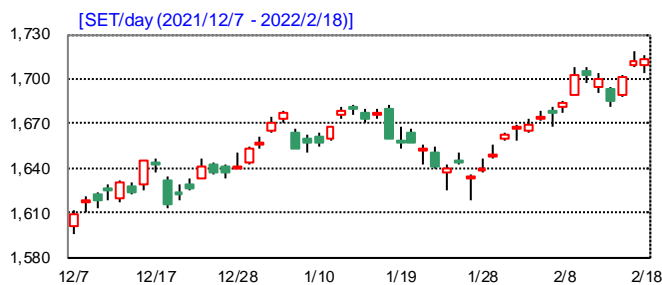


【タイ】

【先週の動き／今週の展望】SET 指数は 0.8%高、今週は 21 年 10-12 月期の GDP が焦点

SET 指数は 4 日間の取引で 0.8%高と 3 週続伸。週初に下落したが、その後は週末までじりじりと上値を広げた。14 日は前週末の NY ダウが利上げの加速懸念を受けて下落した流れを引き継ぎ、3 営業日続落。一方、15 日は閣議で電気自動車 (EV) の普及を目的とする補助金制度が承認された効果で関連株が買われ、指数は前日比 1.0%高と反発し、終値で 3 日ぶりに 1700 ポイント台を回復した。祝日を挟んだ 17-18 日も買い優勢の展開となり、続伸している。今週は 21 日の 21 年 10-12 月期の GDP に続き、23 日に 1 月の貿易統計 (通関ベース) が発表される予定で、内容次第で株式相場の支援材料になりそうだ。

▼指数チャート



【マレーシア】

【先週の動き／今週の展望】クアラルンプール総合指数は 1.5%高、今週は 1600 ポイント台維持に期待

クアラルンプール総合指数は週間で 1.5%高と 3 週続伸。堅調な値動きが続き、週半ば以降の終値は 1600 ポイント台で推移した。週初の 14 日は前週からの勢いを引き継ぎ、4 営業日続伸。15 日はプランテーション株の一角が買われ、指数は前日から 1.0%上昇すると、16 日は終値で約 4 カ月ぶりに 1600 ポイント台に乗せた。17 日も小幅に上値を広げたが、18 日は銀行株とエネルギー株に利益確定売りが出て、8 営業日ぶりに反落して引けている。今週は 24 日に 1 月の CPI が発表される予定で、前年同月比の上昇率は 2%台になる見通し。外部要因では、ウクライナ情勢を巡る米ロの動向が相場を左右する展開か。

▼指数チャート



本レポートは、株式会社DZHフィナンシャルリサーチ（以下、「DZH」と称します）により作成されたものです。

本レポートは、DZHが信頼できると判断した各種データ、公開情報に基づいて作成しておりますが、DZHはその正確性、完全性を保証するものではありません。

ここに示したすべての内容は、DZHで入手しえた資料に基づく現時点での判断を示しているに過ぎません。

DZHは、本レポート中の情報を合理的な範囲で更新するようにはしておりますが、法令上の理由などにより、これができない場合があります。

本レポートは、お客様への情報提供のみを目的としたものであり、特定の金融商品の売買あるいは特定の金融商品取引の勧誘を目的としたものではありません。

また、本レポートによる情報提供は、投資等に関するアドバイスを含んでおりません。

本レポートにおいて言及されている投資やサービスは、個々のお客様の特定の投資目的、財務状況、もしくは要望を考慮したものではありませんので、個々のお客様に適切なものであるとは限りません。

本レポートで直接あるいは間接に取り上げられている金融商品は、株価の変動や、発行者の経営・財務状況の変化及びそれらに関する外部評価の変化、金利・為替の変動などにより投資元本を割り込むリスクがありますが、DZHは一切その責任を負いません。

DZHは、レポートを提供している証券会社との契約に基づき対価を得ております。

DZHおよびグループ会社は、本レポートの論旨と一致しないレポートを発行している場合があり、また今後そのようなレポートを発行する場合があります。

DZH、グループ会社およびその役職員は、本レポートに記載された金融商品について、ポジションを保有している場合があります。

本レポートでインターネットのアドレス等を記載している場合がありますが、DZH自身のアドレスが記載されている場合を除き、ウェブサイト等の内容についてDZHは一切責任を負いません。

本レポートの利用に際しては、お客様ご自身でリスク等についてご判断くださいますようお願い申し上げます。